

自動車解体とパーツ販売

CRS埼玉/しのぶや/オートリサイクルナカシマ

中国に工場、来夏稼働へ

月間1万台の処理体制

自動車リサイクル業のCRS埼玉(埼玉川越市、加藤一臣社長、049-228-5111)としのぶや(栃木県那須町)、オートリサイクルナカシマ(大分県日田市)などは、中国・江蘇省張家港市に使用済み自動車の解体処理とリサイクルパーツ製造・販売の合弁会社を設立した。来年8月の工場稼働を目指し、今月末にも着工する。月間の解体台数は当初、3000台を目標とし、最終的には1万台まで引き上げる計画だ。

リサイクル工場は、上海市から高速道路で北西に2時間ほど走った張家港市の自動車解体園内に約6万6000平方メートルの土地を取得し、総額1300万円で、約10億円を投じて建設する。

園区全体は57.2平方メートルと広大な用地で、第一期計画では5工場分の土地が決まった。中国では、自動車リサイクルシステムの整備を進めており、張家港市の自動車解体園区は、海外からも廃車を輸入して日本国内の使用済み自動車台数を上回る年間500万台を解体するという大規模な国家プロジェクトに位置づけられる。

中国市場への参入にあたり、CRS埼玉、しのぶや、オートリサイクルナカシマの3社は、中国・北京市の投資会社Long Tree Capitalと香港のCapital Resource Recycling社を立ち上げた。資本金は702万米ドル(1米ドル77円)で、張家港市に建設するリサイクル工場は、CRS埼玉の事業子会社「カパ(張家港)資源再生有限公司」が運営する。カパ社は今年8月に設立され、CAPA社のほか、張家港政府の投資会社からも10%資本が入る。資本金

は5000万元(1元12円換算で6億5000万円)で、280名の従業員を現地で雇用する。日本の解体よりも人件費が抑えられるため、取り出したモーターなどの部品もさらに細かく分解が可能となり、資源価値が

上がる。廃車カは近くの電炉メーカや破砕業者へ売却する予定だ。エンジンなどにアルミが多く使われていることから、アルミの溶解炉の導入も検討している。リサイクル材は、日系の自動車メーカなどへ供給していきたいと考えた。

中国では近年、急激にモーターリセッションが進み、昨年は1800万台もの新車が販売の展開を目指している。

中国の認定施設での解体台数は40万台に留まるが、CRS埼玉の加藤社長は「10-15年後には、新車販売台数の半分にあたる900万台が廃車となる」と見ている。CAPA社は、張家港市を足がかりに10年間で20の事業子会社を立ち上げ、広東省広州市や四川省、上海市など中国全土で自動車リサイクル事業の展開を目指している。

環境省は、PCB廃棄物の処理に関する特別措置法の施行から今年で10年が経過したことを受け、PCB廃棄物の適正処理を推進するための検討委員会(座長・永田勝也早稲田大学理工学部教授)を立ち上げ、10月1日に省内外で会合を開いた。検討会では、PCBが使用された蛍光灯・水銀灯の安定器等や汚染物、微量PCB汚染電気機器等の処理の遅れが指摘され、既存の焼却施設での処理を促すべきとの意見も上がった。

高圧トランスとコンデンサの処理は、日本環境安全事業(JES CO)の北海道室蘭市、東京都江東区、愛知県豊田市、大阪市、福岡県北九州市の全5事業所で進めており、今までの約3割の処理を終えた。

富士ゼロックスは、射出成形性など基本的な機能を付与する基礎研究は富士フィルムと、着色技術、量産技術の獲得など実用化のための開発はダイセルポリマーと協業した。同様に新開発した、飼料用トウモロコシ原料のポリ乳酸を50%以上含むバイオベースは、2007年から導入していたバイオマスプラがポリ乳酸と石油系材料とのアロイ樹脂を重量で30%以上含むものだったのに対し、ポリ乳酸のみのベースプラを50%以上含む。

アでは処理の見込みが全く立っていない。微量PCB汚染電気機器の処理は、昨年民間施設での処理が開始されたが、保管されている汚染機器の量は膨大となっている。特措法では、16年7月までのPCB廃棄物の処理完了が規定されている。

射出成形性など基本的な機能を付与する基礎研究は富士フィルムと、着色技術、量産技術の獲得など実用化のための開発はダイセルポリマーと協業した。同様に新開発した、飼料用トウモロコシ原料のポリ乳酸を50%以上含むバイオベースは、2007年から導入していたバイオマスプラがポリ乳酸と石油系材料とのアロイ樹脂を重量で30%以上含むものだったのに対し、ポリ乳酸のみのベースプラを50%以上含む。

アでは処理の見込みが全く立っていない。微量PCB汚染電気機器の処理は、昨年民間施設での処理が開始されたが、保管されている汚染機器の量は膨大となっている。特措法では、16年7月までのPCB廃棄物の処理完了が規定されている。

射出成形性など基本的な機能を付与する基礎研究は富士フィルムと、着色技術、量産技術の獲得など実用化のための開発はダイセルポリマーと協業した。同様に新開発した、飼料用トウモロコシ原料のポリ乳酸を50%以上含むバイオベースは、2007年から導入していたバイオマスプラがポリ乳酸と石油系材料とのアロイ樹脂を重量で30%以上含むものだったのに対し、ポリ乳酸のみのベースプラを50%以上含む。

アでは処理の見込みが全く立っていない。微量PCB汚染電気機器の処理は、昨年民間施設での処理が開始されたが、保管されている汚染機器の量は膨大となっている。特措法では、16年7月までのPCB廃棄物の処理完了が規定されている。

射出成形性など基本的な機能を付与する基礎研究は富士フィルムと、着色技術、量産技術の獲得など実用化のための開発はダイセルポリマーと協業した。同様に新開発した、飼料用トウモロコシ原料のポリ乳酸を50%以上含むバイオベースは、2007年から導入していたバイオマスプラがポリ乳酸と石油系材料とのアロイ樹脂を重量で30%以上含むものだったのに対し、ポリ乳酸のみのベースプラを50%以上含む。

アでは処理の見込みが全く立っていない。微量PCB汚染電気機器の処理は、昨年民間施設での処理が開始されたが、保管されている汚染機器の量は膨大となっている。特措法では、16年7月までのPCB廃棄物の処理完了が規定されている。

鉄スクラップ

5カ月ぶり40万t超

前年同月超も9カ月ぶり

鉄スクラップの輸出量が5カ月ぶりに回復の兆しを見た。2011年8月期の輸出量は49万8999tで、今年3月以降の40万t超となっていた。前月比では10万8900t増(128.5%)、前年同月比でも1万2270t増(102.6%)となった。

この時期、日本国内での鉄鋼需要の低下、夏季節電による操業の

抑制などが要因となり、スクラップの輸出が活発化した。歴史的な円高の影響はあったものの、中韓における鉄源需要増も手伝って、ようやく平年並みの水準を回復した形だ。国内市場ではこの時期、円高の影響で国際価格よりかなり割高だった日本スクラップ価格の是正が進み、7月の最高値から3000円下げたことも要因となった。

抑制などが要因となり、スクラップの輸出が活発化した。歴史的な円高の影響はあったものの、中韓における鉄源需要増も手伝って、ようやく平年並みの水準を回復した形だ。国内市場ではこの時期、円高の影響で国際価格よりかなり割高だった日本スクラップ価格の是正が進み、7月の最高値から3000円下げたことも要因となった。

グで改善

JFEスチールは9月20日、広島大学と鉄鋼スラグを利用した環境改善の分野で包括的な研究協力を行うこととで合意し、協定を締結した。従来の共同研究といった連携活動をより組織的に進めることとで、両者の研究者の相互理解を深め、研究開発の加速・深化につ

取り組んでいく。一方の広島大学では、研究者相互の交流の活性化や新規ニーズに対応した研究、関連分野での人材育成等を図る。今後、両者は「連携協力推進委員会」を10月上旬に設置。連携内容の情報交換や具体的な計画の立案、活動の進捗確認や評価を行

海洋中の植物プランクトンの成長に良い影響を与えることが分かってきた。森林の減少などで海洋に流入する鉄が減少傾向にあり、その影響で沿岸部の海藻等が死滅する「磯焼け現象」が深刻化しているなかで、鉄鋼スラグ資材を用いることで

製鐵では磯焼け対策として、廃木材チップを発酵させた腐食土との混合を奨励した。鉄分補給ユニットを製作。北海道や関東、紀伊半島や九州など全国にユニットを埋設し、藻場の回復を確認した。また、住友金属は漁礁ブロックを用いた実験を三重県で開始している。

あることから、19年間にわたって、リサイクル率を向上させるための通信・電算ネットワーク構築、立本直営

あることから、19年間にわたって、リサイクル率を向上させるための通信・電算ネットワーク構築、立本直営

あることから、19年間にわたって、リサイクル率を向上させるための通信・電算ネットワーク構築、立本直営

あることから、19年間にわたって、リサイクル率を向上させるための通信・電算ネットワーク構築、立本直営

2011年8月の鉄スクラップ輸出の数量と金額 (貿易統計より)

品名	当月		累計			
	数量	金額	数量	金額		
合計	5万1214t	49万8999t	251億4075万円	5万2244t	5万2244t	172億5062万円
鉄屑くず	6万7187t	591t	3966万円	8万1327t	1494t	1億2147万円
ステンレス鋼	16万9332t	7493t	12億6879万円	17万1348t	7万7665t	133億774万円
その他合金鋼	7万2323t	3595t	2億6003万円	8万4899t	2万9126t	23億8778万円
すずめっき	5万9077t	297t	1512万円	5万880t	691t	3517万円
切頭くず打抜き	4万9777t	2万6461t	10億8429万円	4万472t	32万2273t	130億4297万円
ヘビークズ	4万5607t	14万965t	57億1755万円	4万1270t	78万5684t	324億2556万円
その他合金鋼	5万3787t	31万1495t	167億5429万円	5万3325t	207万4792t	1106億3764万円
再溶解用インゴット	50万t	2t	100万円	4万3281t	4443t	1億9230万円

2011年8月の鉄スクラップ輸出先上位5カ国統計 (貿易統計より)

国名	当月		累計			
	数量	金額	数量	金額		
大韓民国	4万1324t	24万8844t	102億8312万円	4万3476t	175万8653t	764億5996万円
中華人民共和国	6万1664t	23万3408t	143億9277万円	6万1778t	147万6395t	912億808万円
香港	4万7467t	5170t	2億4542万円	6万8414t	1万9106t	13億710万円
ベトナム	4万9885t	1954t	9747万円	5万319t	1万9866t	9億9972万円
台湾	8万1856t	557t	4557万円	9万5041t	1万5214t	14億4597万円

10月は「3Rの推進」と「産業廃棄物の適正処理推進」月間です!!

(社)北海道産業廃棄物協会は3R(リデュース、リユース、リサイクル)をすすめて産業廃棄物を適正処理しています。

10月は、530会員が道民や企業の皆さんとともに豊かな自然を守り、不法投棄の防止に取り組みます。

北海道の豊かな自然を守るため
私たちは産業廃棄物を適正に処理しています

災害にも負けず! ナデシコのように! 3Rと適正処理で循環型社会をめざしましょう!!

577 社団法人 北海道産業廃棄物協会 ☎011-241-7611

雑がれき 射線検知には

会長 中川丈夫(株式会社 道央道路工業) 副会長 中野公紀(株式会社 日本油設エンジニアリング)
副会長 栗原利勝(協業組合 旭川浄化) 副会長 石塚辰統(株式会社 産業廃棄物処理センター)